浦 安 市 市 民 活 動 だ ょ IJ



市民活動センター市役所10階に新しくオー

2016年6月に現在の市庁舎のオープンとともに1階にて団体の 皆さんの活動を応援してまいりました市民活動センター(以下セ ンター)は、庁舎内の施設の配置見直しにより、9月12日(日)、市 役所10階に移転しました。

新しいセンターはエレベーターを降りて右手、食堂「sora-cafe (ソラカフェ)」の隣です。高層階なので、明るく、何より見晴らし が抜群。会議室や交流サロンからは境川を中心に街並みや海が 見渡せます。特に晴れた日、青空の下での眺めはすがすがしく、 ミーティングや催しなども気持ちよく行っていただけます。

センターの機能はこれまでどおりです。大型プリンターや印刷 機、紙折り機などの機器やロッカー、メールボックスなどはもち

ろん、会議室や交流サロンもお使いいただけます。

なお、市民活動に関する相談で訪れる人が立ち寄りやすいよ う、1階に相談カウンターを新設。そこでの対応も行います。また、 来庁者をはじめ、より多くの方に団体の活動をお知らせするた め、マグネットボードや穴あきボード、ラックを1階にも設置しま す。チラシ配布、ポスター掲示、企画展示などでご利用ください。 (1階の改装後稼働予定)

新しいセンターへのご来館、スタッフ一同心よりお待ちしてお ります。

※会議室や交流サロンの定員は新型コロナウイルス感染症の状況により変更となる 場合があります。

ボックス

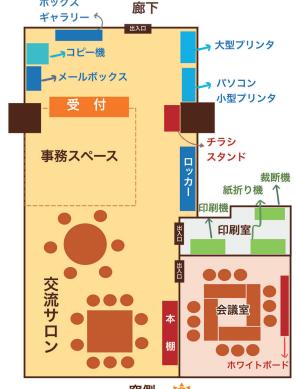


入り口付近

交流サロン



会議室



窓側

まちづくり講座

「みんなでSDGs~できることからやってみよう!」を開催

自分と身の回りにある仕組みとの関わり方を変えてみよう

9月5日(日)に、SDGsをテーマにしたまちづくり講座を開催しました。最近では、テレビや雑誌などでSDGsという言葉やそのアイコンを見聞きすることが増えました。情報はたくさんある一方で、SDGsの本質を正しく理解することが難しい状況です。そこで、神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部の教授である石井雅章さんを講師にお招きし、SDGsの目指す理想の姿や大切な視点、SDGsの目標と自分自身のアクションをつなげるためのヒントについて講演いただきました。講演の合間にクイズや個人ワークの時間もあり、参加者のみなさんがSDGsを自分ごと化して考える貴重な機会になりました。

SDGsとは「持続可能な世界 |を実現するための目標

いまの世界は海洋汚染や気候変動による大きな災害、差別など様々な地球規模の問題に直面しています。このままでは私たちの生命が脅かされ、暮らしが立ち行かなくなります。地球規模のこの問題を解決して、誰もが安心して暮らし続けられる世界にするために、私たちはいま、何をすればいいかを考え、実行することが求められています。アイコンになっている17のゴールは最終目標ではなく、その先に目指すべき未来である「持続可能な世界」があります。

「持続可能な開発」とは

SDGsにおける「開発」とは経済的なことだけではなく、それぞれの人がもっている潜在能力を発揮できる環境を整え、精神的・社会的・文化的にも「ゆたかになる」ことです。また、「持続可能」とは今を生きるすべての人々だけでなく、子ども、孫の世代を生きるすべての人々が公平に「ゆたかに生き続けられる」ことです。そのためには、経済・社会・環境という、いずれかを得ようとす

ると他が損なわれる関係にありそうな3つをいかに並び立たせる か考えることが重要です。

まずは普段の何気ない行動を振り返ろう

SDGsを自分自身とつなげるためには、例えば「私と自然」や「私と子どもの関係」など、身の回りの物事との関係性をSDGsの目指す持続可能な世界という視点からあらためて捉え直し、これまでの関わりや仕組みを意識的に変えてみることが必要です。ひとりひとりの行動を変えることによって、より持続可能な世界へと変革が進みます。

参加者の声

- ●「環境問題や貧困のような大きな社会問題もそうだが、仕事など身近な課題でもSDGsの目標から見たらどうだろうと考えようと思った|
- ●「『私と若者』という関係を教える側、教わる側というのではなく、それぞれの世代の力を引き出し合い、学び合える関係にしていきたい |
- ●「『自分と街』との関係を捉え直し、街に遊びに来る人だけでは なく、住んでいる人も楽しく住めるような街にしたい」
- ●「購入する商品やそのメーカーとのSDGsの関係を意識してみようと思った」

石井先生のお話を聞き、SDGsを自分の身近なものに感じることができるようになりました。自分と自分の身の回りの何か具体的なものとの関係を意識して捉え直すことで、これまでとは違う行動をとることにつながり、その小さな積み重ねが持続可能な世界につながっていくのだと思いました。





SDGs「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月に国連サミットで採択された国際社会共通の目標です。2030年までに実現したい「持続可能な世界」を描き、それを実現するには今何をすればいいかという視点で17のゴール(目標)と169のターゲット(より具体的な目標)、達成できたかどうか測るための232のインディケーター(指標)が設定されています。

講座に参加して… ~わたしたちのSDGs~

まちづくり講座終了後に、講座参加者6名がZoomで集い、SDGsや私たちにできること=ボランティアについてなど自由に話し合いました。講座での気付きを再確認し、SDGsをより「自分ごと」として考える時間となりました。

参加者

- **ਫਫ਼ਫ਼ਰ ひかる 佐原 光さん** 学校教育関係者
- いけだ とも
- 池田 倫子さん 市民活動団体スタッフ(ラらやすドキュメンタリーオフィス)
- 末永 裕充さん 介護施設職員
- 【仁藤佐 **凪紗さん** 地方公務員
- **諏訪部 倭さん** 大学生
- **吉田 美紅さん** 保育士

佐原:SDGsを「自分ごと」として捉える大切さに気づきました。 市民活動を通じて年齢や経歴も異なる地域の人々と関わること で視野が広がり、人生に対するアイディアも豊かになったと感じ ています。運営する学校の生徒たちにもそれを伝え、一緒にまち づくりについて考えていきたいです。

池田: SDGsはまだ関心のある一部の人々が知っているアイコン、というイメージをもっている人が多いと思います。平等や貧困について扱っているドキュメンタリー映画はSDGsに通じるものがあるので、映像や音楽を通して「自分ごと」として体感してもらえればと思います。

末永:人間の尊厳を大切にするというSDGsの側面は、福祉にも通じると思いました。環境を変えることは、意識することで、今日明日にでもできることだと感じました。コロナ禍で地域の結びつきが希薄になっている問題に対し、地域の一員であることを意識して取り組んでいきたいです。

仁藤佐:自分ができることをSDGsの17個のゴールに当てはめるのではなく、それとは逆に「持続可能な世界を実現するために、自分ができることを探す」という考え方が重要と分かりました。ひ



とりひとりの行動の積み重ねや意識の大切さをあらためて感じました。持続可能な世界を作るために、たとえば子ども食堂についても「あるべき姿」を元に、自分が取り組めることを見つけていこうと思いました。

吉田:目指すべきゴールは個々に存在するのではなく、それぞれがつながり合っていることを知り、予想外でした。自分ごととしては保育園で行っている、ペットボトルや食品ラップの芯などを利用したおもちゃ作りなど身近な取り組みで、園児や保護者のリサイクルに対する関心をさらに高めていきたいです。

障がい者と関わったボランティアの経験は今の仕事の自信へとつながっています。そのときに感じた気づきは「身構える必要はない」ということです。

諏訪部:17のゴールにしか目を向けられていなかったので、細かく定められているターゲットや指標、前文についても見直そうと感じました。

公園整備や子ども食堂のボランティアに参加しましたが、スタッフさんは親世代以上の人が多いので、自分たちのような世代がもっと参加し、力仕事などサポートできればいいなと思いました。

石井先生よりメッセージ

「持続可能な世界」の目指すゴールがそれぞれつながり合っていることを意識するのは大切な視点です。

たとえば、「環境破壊」、「貧困」、「人間らしく生きられないこと」は根底の部分ですべてつながりがあります。さまざまな問題をひとつのサイクル、しくみとして考えてみましょう。

《持続可能な世界》は人類がまだ実現したことのない壮大な目標といえます。こたえを知っていて教えてくれる先生のような人はいません。誰もが実現するための担い手であり、あらゆる世代や立

場の人が共に学び合いながら実現していくものだと考えています。

「自分のできることを17個のゴールに当てはめる」という先入観をもっている人の多かったSDGsですが、今回の講義や座談会を受けて、参加者の皆さん同様に私の考えも一変しました。

SDGsを堅苦しく捉えすぎず、「自分と関わりのある世界で今幸せを生み出すためにできることは何か」をそれぞれが考えて行動に移すことが何よりも大切だと感じました。

「うらやすNPOウィーク2021パートII」 参加団体募集中

期間 ------11月25日(木)~ 12月8日(水)

場所 …… 市民ホール(市役所1階)

方法 ――――展示と動画による活動紹介(両方でご参加ください)

特設サイトに動画をアップします。

展示会場でも終日上映

申込 …… 所定のフォームにてお申し込みください。

●市民活動センターホームページ

「うらやすNPOウィーク2021partll 参加団体募集」

内からダウンロード

申込先……市民活動センター

申込締切…10月31日(日)

毎年、市民のみなさんに市民活動を広くご紹介する場として開催しているうらやすNPOウィーク。今回は例年より早い時期、11月から12月にかけて2週間の開催となりました。コロナ禍、十分に活動できない状況が続いていますが、活動をアピールする場「NPOウィーク」に、ご参加ください。

■動画について

長さ……2分~3分

保存形式 ……… mp4にて保存してください。 **内容** ……… 団体紹介、活動紹介の他、

以下の動画も応募できます。

特化した事業・活動に関するもの、 会員募集、寄付募集、イベントや講座の告知

動画提出締切 …… 11月14日(日)

提出方法 ·········● ギガファイル便 ファイヤストレージなど ファイル転送サービスを利用

> ●センターHP「センターからのお知らせ」 動画提出窓口から (Googleアカウントをお持ちの方)

●USBメモリーに保存して直接センターまで

※申し込みにあたり、必ずセンターホームページ「うらやすNPOウィーク2021partll 参加団体募集」のオンライン説明会(動画)をご覧ください。

備品ロッカー・メールボックスの 利用申込みについて

市民活動センターでは、市民活動センター登録団体を支援するため、活動に必要な備品などを一時保管しておくための備品ロッカーと、郵便物などを一時保管するメールボックス(レターケース)を貸し出しています。

ボックスギャラリーをご利用ください

アクリル製のボックスを廊下に向けて設置しました。

活動での制作物や活動をイメージした作品などを飾っていただけます。団体活動のPRのためにご利用ください。

申込期間……12月1日(水)~12月20日(月)

申込み方法…直接、メールで市民活動センターへ

メール申込の際は団体名、担当者名を記載

(抽選結果は申込みのあったメールにお知らせします)申込多数の場合は抽選となります。

●備品ロッカー

サイズ ………高さ56cm×幅29cm×奥行き49cm

(鍵付き)

貸出数……27 個

利用期間……令和4年1月~6月(6ヶ月)

• メールボックス

サイズ ………高さ7cm×幅23cm×奥行き33cm

(鍵なし)

貸出数……42 個

利用期間……令和4年1月~12月(12ヶ月)

※定期的に郵便物を取りに来ることができる団体に限ります。※どちらも市民活動センター開館時間のみの利用可能。

サイズ………高さ30cm×幅30cm×奥行き30cm

貸出数 ……12個

申込期間……12月1日(水)~12月20日(月)

申込み方法…直接、メールで市民活動センターへ

メール申込の際は団体名、担当者名を記載 (抽選結果は申込みのあったメールにお知らせします)

申込多数の場合は抽選となります。

利用期間……令和4年1月~12月(12ヶ月)

※展示物は定期的なメンテナンスをお願いします。(1か月に1回目安)



センター日誌より

9月11日(土)、センター引っ越しの日。荷物が運び出されたセンターはガランとしています。 感慨に耽る間もなく、新センターの準備にとりかかるも休館中、少々さびしいスタートとな りましたが、10月からは再開し、みなさんにお会いできますね。明るく使い勝手の良い新セン ターは、きっと居心地の良いみなさんの活動拠点となるでしょう。ぜひ足をお運びください。



問い合わせ・申込みは 市民活動センターまで



発行:浦安市市民活動センター 2021年10月10日

〒279-8501 千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階) TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722 E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp URL http://u-shimin.genki365.net